



化学本部



執行役員
化学本部長
植村 幸祐
2021年12月10日

自己紹介



執行役員
化学本部長
植村 幸祐

- 1993年入社 / 兵庫県出身
- 東京大学 農学部 卒業 (1993)
Southern Methodist University MBA修了 (2001)
- 入社後略歴
 - エネルギー化学プラント第一部 (1993~1999)
 - エネルギー化学プロジェクト部 (2001~2002)
 - エネルギープロジェクト部/エネルギー開発部 (2002~2012)
 - ー 米国ヒューストン駐在 (2003~2010)
 - LNG部 (2012~2013)
 - エネルギー・金属部門
 - ー 米国ニューヨーク駐在 (2013~2015)
 - ー 米国ヒューストン駐在 (2015~2018)
 - 化学本部プロジェクト開発室長 (2018~2020)
 - 化学本部副本部長 (2020~2021)
 - 化学本部長 (2021~現)

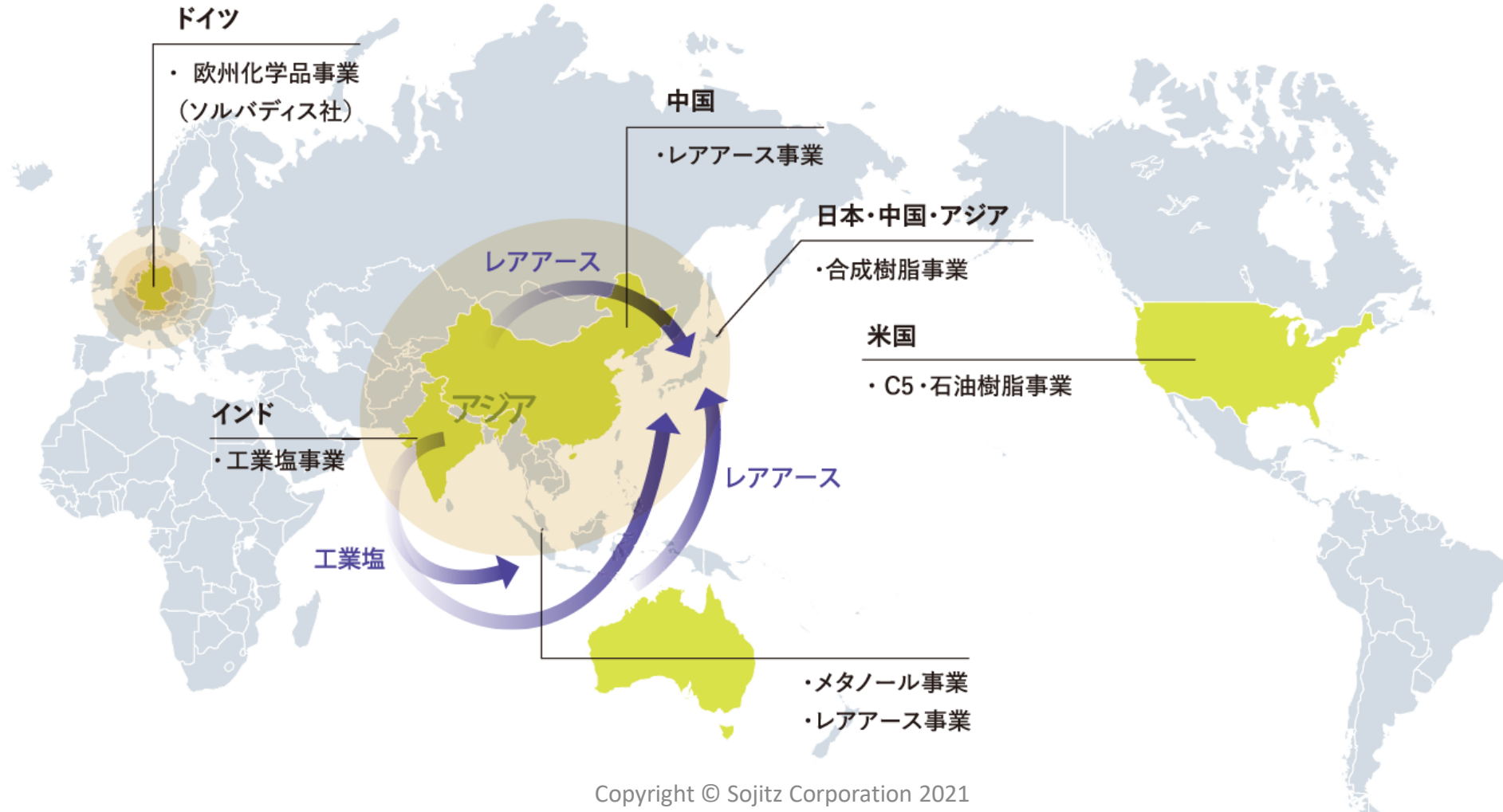
本部概要

当本部の
強み

顧客基盤
約5,000社

環境変化に対応した
提案機能

幅広い商材

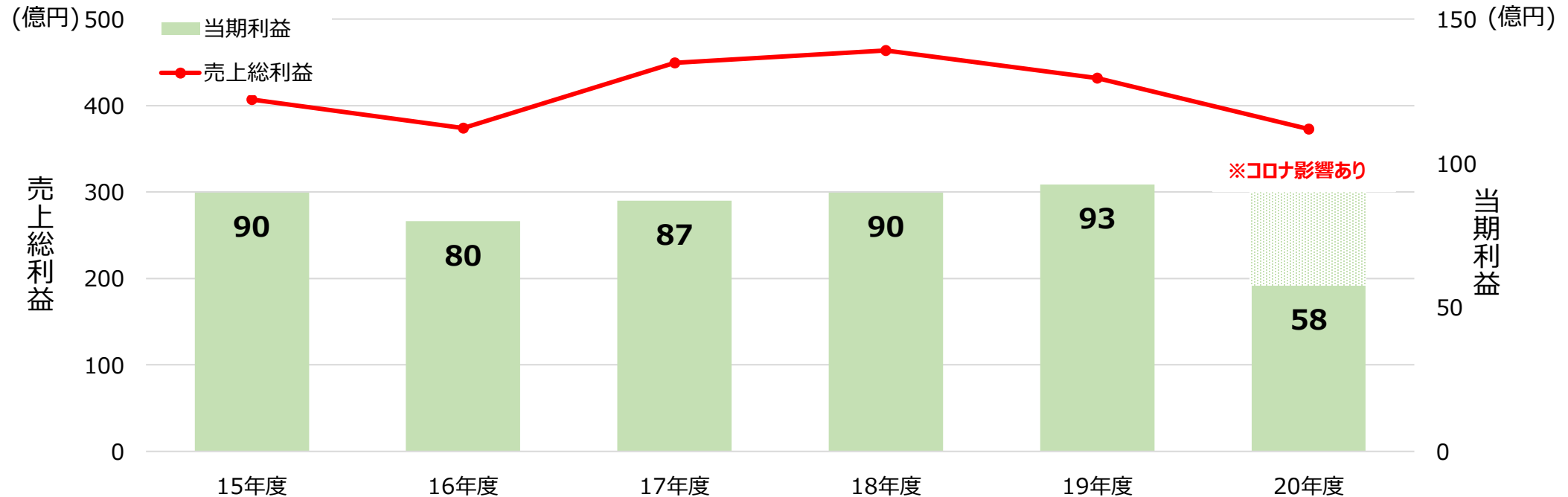


本部概要

■ 化学本部 基本情報（2021年4月1日現在）

本部単体従業員数	263名	（連結従業員数 1,656名）
連結子会社	34社	（国内7社、海外27社）
持分法適用会社	13社	（国内1社、海外12社）

■ 実績サマリー



総資産	2,617	2,931	3,049	2,986	2,690	2,723
ROA	3.3%	2.9%	2.9%	3.0%	3.3%	2.1%

中計2023における成長戦略 -既存領域の拡大-

既存領域の拡大により安定化した収益を確保する

✓収益の柱の内、当社が強みを持つ4領域を選定し事業の拡大を目指す

メタノール



合成樹脂



レアアース



機能性材料



既存の強み

東南アジアでの
製造オペレーション

グローバルトレード

取扱高 No.1

米国での
製造オペレーション

領域拡大戦略

脱炭素に配慮した
新たな製造拠点の
確立

リサイクル・
バイオ樹脂の拡充
プラマテルズの融合

安定供給による
日本産業の下支え

軽量化素材の
バリューチェーン
構築

中計2023における成長戦略 -戦略領域への挑戦-

環境調和型社会への貢献、ライフスタイルの変容など社会ニーズに応じた戦略領域に参入する



環境分野

バイオ由来ケミカル事業



- 発酵・バイオ合成プロセス技術の獲得
- 遺伝子組換え菌体・酵素を活用したバイオケミカル製造

リサイクル事業



- 優良顧客基盤を基にしたリサイクルスキームの構築
- スケーラブルなケミカルリサイクル事業

中計2023における成長戦略 -戦略領域への挑戦-

環境調和型社会への貢献、ライフスタイルの変容など社会ニーズに応じた戦略領域に参入する

ライフサイエンス分野

機能性表示食品・素材事業



- 素材メーカーとのコネクションを活かした川下領域への展開
- 生活習慣病・認知症予防サプリメント事業への参画
- コンシューマー向け販売チャネルの獲得

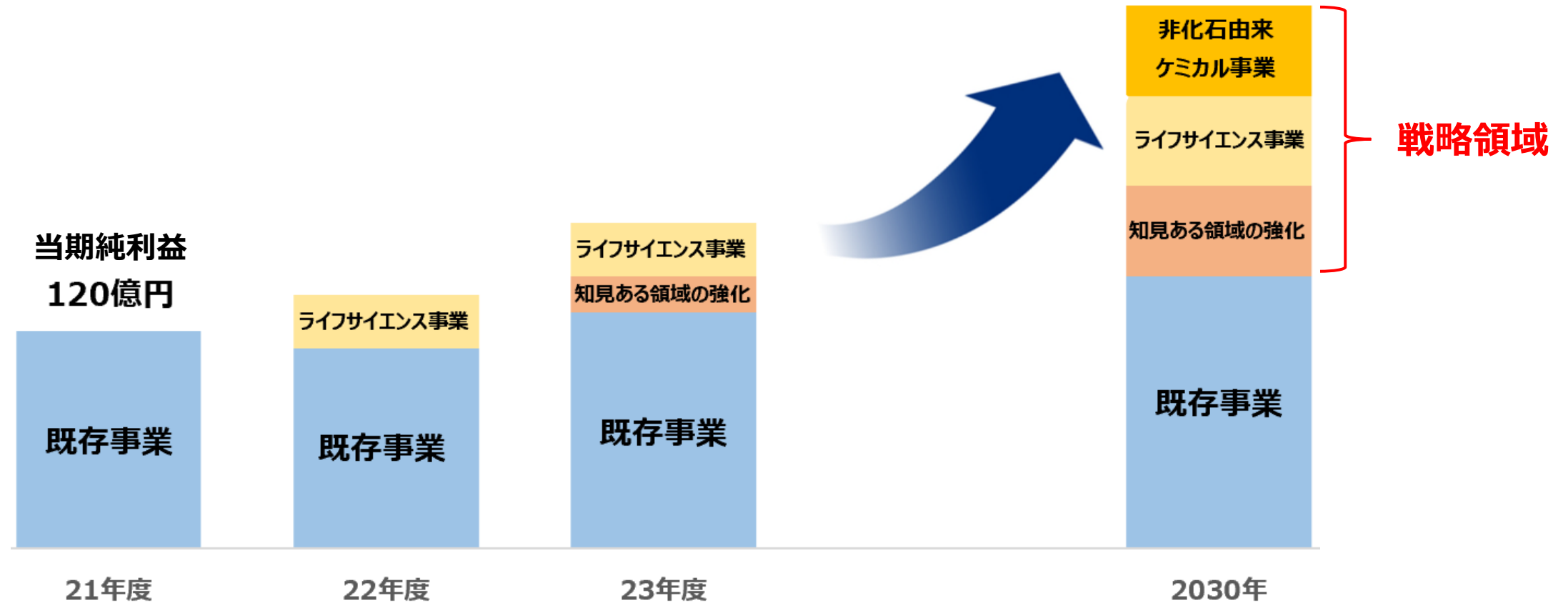
医療関連・周辺事業



- 健診・診断事業への参画
- DX技術による健康管理の高度化

成長戦略 -収益計画-

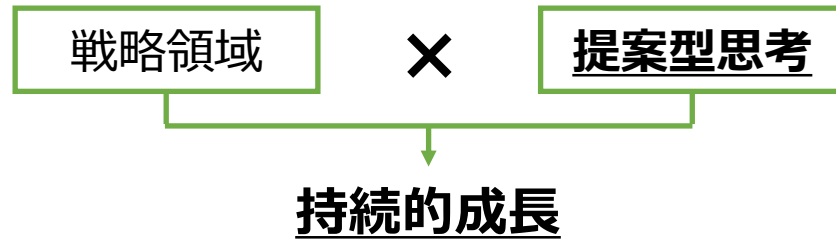
- 既存事業で盤石な収益基盤を構築 ➤ 強みのある領域の強化・幅出し
- 化学本部と親和性の高い領域への挑戦 ➤ ライフサイエンス分野への参入
- 非化石由来バイオケミカル・樹脂の製造事業とリサイクル事業の組み合わせで脱炭素社会に貢献



成長戦略 -人材計画-

- 人材育成計画 ➤ 提案型思考人材の育成
- 人材配置の最適化 ➤ 戦略領域へ人員シフト
- キャリアパスの再構築 ➤ ダイバーシティの推進、多様な社会ニーズに対応できる組織

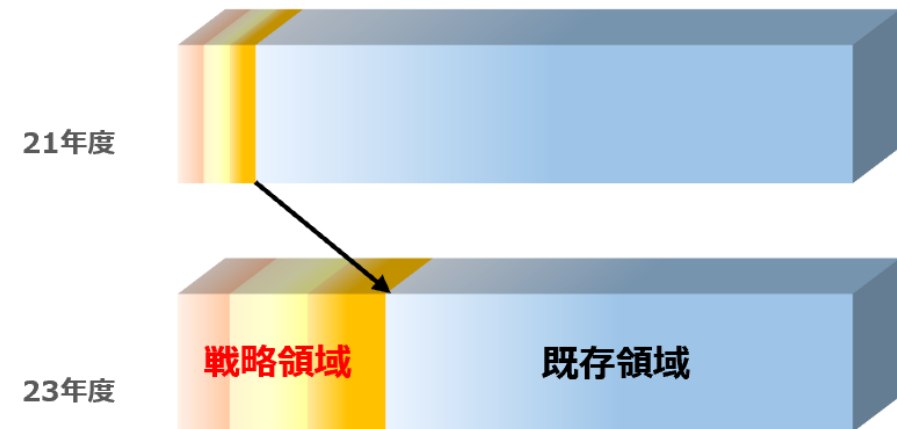
✓「提案型思考」への変革による持続的な成長



✓ 組織レベルを起点とした変革



※人材配置の最適化のイメージ





将来情報に関するご注意

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、業績を確約するものではありません。実際の業績等は、新型コロナウイルス感染症の収束時期や、内外主要市場の経済環境、為替相場の変動など様々な要因により、大きく変動する可能性があります。重要な変更事象等が発生した場合は、適時開示等にてお知らせします。